

A 律法と信仰（契約と約束）

- ❖ 「契約」のギリシャ語はディアセーケーである。これは一方のみが他方に 約束を与えるタイプの契約である。これは通常ある時期に履行される。（例えば遺言者がなくなった後）

B 神さまが約束し、私たちはそれを受け。アブラハムは信仰によって約束を受け入れただけである。神様はお約束を必ず履行される。(2 コリント 1:20)

C 信仰と律法（約束と律法）

- ❖ 律法は以前の約束を破棄したのだろうか。否。（キリスト）の約束の履行は律法を破棄したのだろうか。否。
- ❖ 救いは約束を信じる信仰によるのであるから、律法は私たちを救うことは できない。

D 律法の目的

- ❖ 律法は私たちの罪深い状態を示し、私たちの中にある罪に目を開かせるために導入されたのである。(ローマ 7:13).
- ❖ 「約束された子孫が来るまで」ということはキリストが来られたら律法は もういらなくなるという意味ではない。「まで」は必ずしもある一定の期間を表してはいない。
 - 例えば、イエス様は言われた。「わたしが来る時まで、自分の持っているものを堅く保っていなさい。」(黙示録 2:25) これはイエス様が再び来られた後は、愛や親切は必要ではないという意味ではない。
- ❖ 律法は約束（シナイ）から成就（キリスト）までの 430 年の期間を埋める以上のものであった。律法の有効期間はもっと長いものである。
- ❖ 例えば神様は「アブラハムがわたしの言葉にしたがってわたしのさとしと、いましめと、さだめと、おきてとを守ったからである。」言われた。(創世記 26:5) ヨセフは姦淫は神様に対する罪であることを知っていた。(創世記 39:7-10) イスラエルの人々は律法が与えられる前から安息日を守っていた。(出エジプト 16:22-26)
- ❖ それでは神様は何故シナイでモーセを通してイスラエルの人々に律法を与えられたのか。
- ❖ それは人々がエジプトで奴隷であった間に律法の大部分を忘れてしまったからである。

E 神の律法の存続期間

- ❖ 神様がイスラエルに与えられた律法は永遠のものであるが誰をも救うことはできない。
- ❖ イエス様の犠牲（約束）は救いの物語の転換点であった。それ以来救われる道ができた。（それは礼典律に予表されていた。）
- ❖ 律法は重要であるが、恵みと信仰のみによる救いの約束に取って代わることはできない。律法のおかげで私たちはこの約束がどんなに素晴らしいものであるかをよりよく理解することができる。